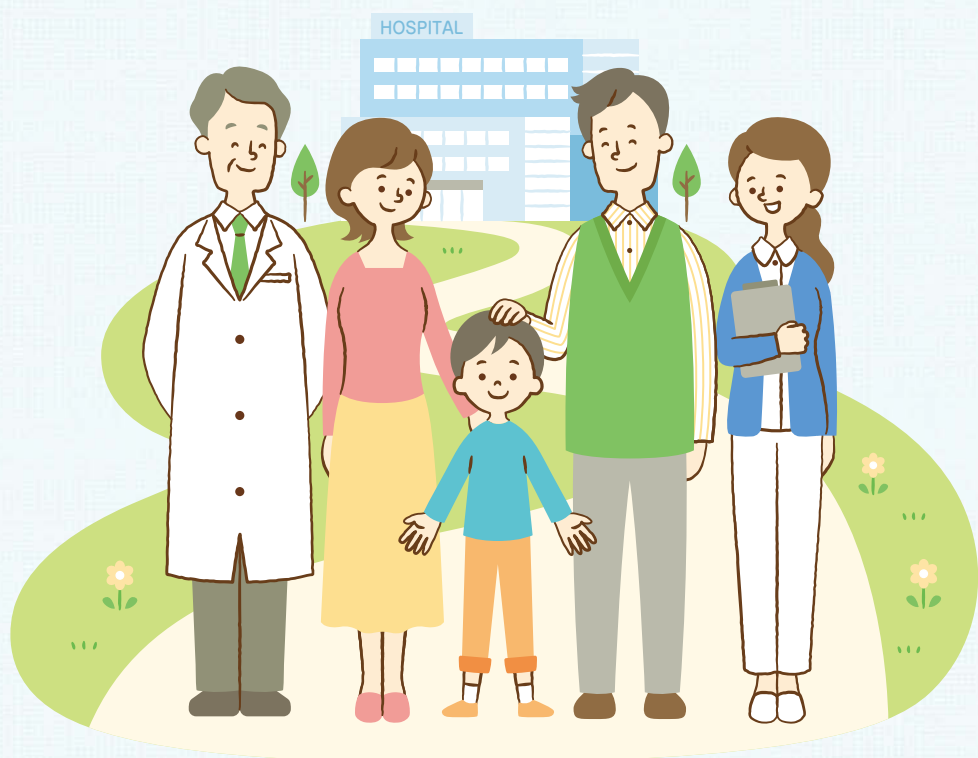


アーウィナーゼ®を用いた治療を
受けられる患者さんやご家族の皆様へ

アーウィナーゼ®筋注用10000 ハンドブック

監修

埼玉県立小児医療センター 康 勝好 先生



はじめに

アーウィナーゼ[®]筋注用10000の 治療を始める患者さんへ

急性リンパ性白血病や悪性リンパ腫は血液細胞の悪性腫瘍(血液のがん)の一種です。

このハンドブックでは、アーウィナーゼ[®]筋注用10000(以下、アーウィナーゼ[®])の治療を受ける患者さんやそのご家族へ向けて急性リンパ性白血病や悪性リンパ腫とはどのような病気か、また、このお薬の効果や作用、副作用、治療に関する全般的な注意点について紹介しています。

病気と向き合い乗り越えていくためには、お薬のことを良く知り、体調の変化に十分注意しながら治療することが大切です。

わからないことや不安に思うこと、もっと知りたいことがありましたら、医師、看護師または薬剤師にご相談ください。

目次

急性リンパ性白血病、悪性リンパ腫について	4
アーウィナーゼ [®] について	5
アーウィナーゼ [®] の作用は?	5
アーウィナーゼ [®] の治療対象となる患者さんは?	6
アーウィナーゼ [®] を使用する治療の流れ	6
アーウィナーゼ [®] の副作用	7
ご家族の皆様へのお願い	10
他院を受診する場合の注意点	10

急性リンパ性白血病、悪性リンパ腫について

急性リンパ性白血病

急性リンパ性白血病は骨髄の中にある幼若なリンパ球ががん化して白血病細胞となり、骨髄の中で白血病細胞が急速に分裂して数を増やしていく病気です。

白血病細胞が骨髄の中で増えた結果、骨髄の本来の機能である造血能(=血球をつくる働き)が著しく障害されます。

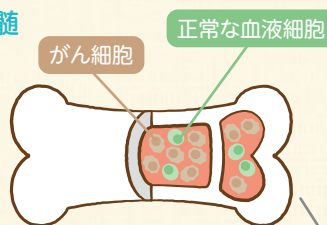
悪性リンパ腫

悪性リンパ腫は、白血球のうちリンパ球ががん化する病気です。

悪性リンパ腫は、がん細胞の形態や性質によって、大きくB細胞リンパ腫、T/NK細胞リンパ腫、ホジキンリンパ腫に分かれます。細かく分類すると、100種類近くのタイプがあります。

急性リンパ性白血病

骨髄



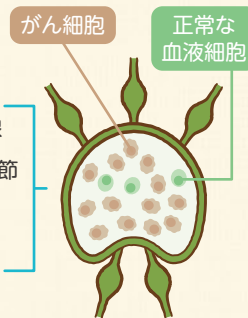
全身の血液



がん細胞が、骨髄や全身の血液で増えている。
正常な血液細胞がつくられにくくなり、さまざまな症状があらわれる。

悪性リンパ腫

リンパ球が多く存在する組織



扁桃腺
リンパ節
胸腺
脾臓

がん細胞がリンパ節などの組織に塊をつくって増えている。
がんの塊ができた部位によって、さまざまな症状があらわれる。

アーウィナーゼ®について

アーウィナーゼ®の作用は？

アーウィナーゼ®は「エルウィニアクリサンセミ」という植物寄生の菌から産生されるアスパラギナーゼ(抗腫瘍酵素)です。

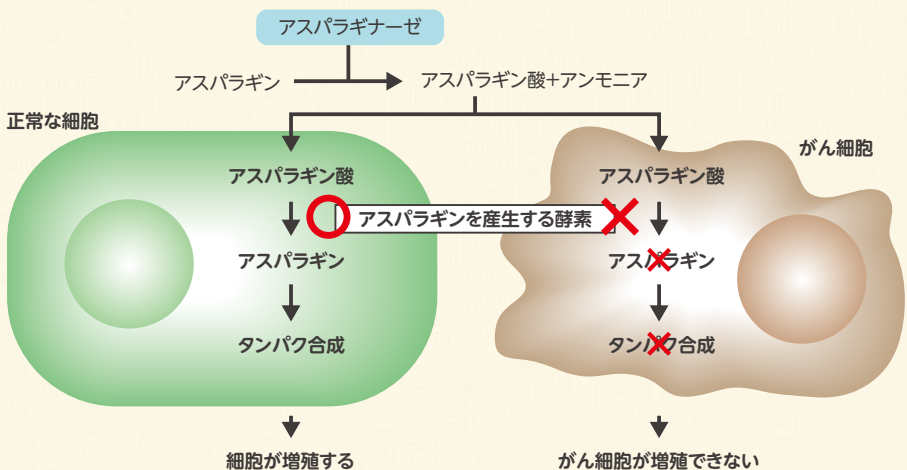
アスパラギナーゼは、アスパラギンをアスパラギン酸とアンモニアに分解します。

細胞はタンパク質でつくられていますが、そのタンパク質をつくる成分の1つがアスパラギンです。

アスパラギン酸は、正常な細胞内では、アスパラギンという物質に再度変換された後、タンパク質の合成に使われます。結果として、細胞が増殖します。

一方、がん細胞は、アスパラギンを産生する酵素を持っていないため、アスパラギナーゼを投与するとタンパク質を合成できなくなり、結果として、がん細胞が増殖できなくなります。

アスパラギナーゼの抗腫瘍作用(イメージ図)



アーウィナーゼ[®]について

アーウィナーゼ[®]の治療対象となる患者さんは？

アーウィナーゼ[®]は大腸菌由来のアスパラギナーゼで過敏症を発現した患者さんに使用されるお薬です。

アーウィナーゼ[®]を使用する治療の流れ

急性リンパ性白血病の治療の基本は、細胞障害性抗がん薬を用いた治療(化学療法)です。

化学療法は数種類の薬剤を組み合わせた多剤併用療法で行い、「寛解^{かんかい}導入療法^{どうにゅうりょうほう}」、「地固め療法^{じがためりょうほう}」、「維持療法^{いじりょうほう}」の3段階に分けて行います。

アスパラギナーゼはこの治療の中で「寛解導入療法」や「維持療法」で重要な役割を担うお薬で、なくてはならないものですが、患者さんによっては時に過敏症が発現してしまい、このお薬が使えなくなる場合があります。

アーウィナーゼ[®]は大腸菌由来のアスパラギナーゼで過敏症が発現した患者さんで使用できるよう製造されたお薬です。

小児の急性リンパ性白血病の化学療法の流れ(例)

寛解導入療法

白血病細胞の減少と症状の軽減を目的にして、アスパラギナーゼなど、複数の抗がん薬を組み合わせる治療で4～5週間かけて投与します。

地固め療法

さらに白血病細胞を減少させることを目的に行います。寛解導入療法で使用していない薬剤を投与します。

維持療法

白血病細胞の根絶と再発予防を目的に行います。外来で行う治療で、最初の治療開始から合計2年以上行うことが勧められています。

アーウィナーゼ®の副作用

アーウィナーゼ®による治療中に、以下のような副作用があらわれることがあります。

特に注意が必要な副作用と主な自覚症状

● か びんしょう過敏症

寒気、ふらつき、汗をかく、発熱、意識の低下、口唇周囲のはれ、息苦しい、じんま疹、発疹、かゆみ、全身のかゆみ、喉のかゆみ、どうき動悸

● すいえん肺炎

強い腹痛、背中の痛み、お腹が張る、吐き気、おうと嘔吐、体重が減る、喉が渇く、尿量が増える、皮膚が黄色くなる、油っぽい下痢が出る

● ぎょうこ いじょう凝固異常

鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、軽い打撲による出血性のこぶ、便が黒くなる

血栓症

ふくらはぎの痛み・腫れ、手足のしびれ、鋭い胸の痛み、突然の息切れ、押しつぶされるような胸の痛み、激しい頭痛、脱力、まひ、めまい、失神、目のかすみ、舌のもつれ、しゃべりにくい



じんま疹



腹痛

アーウィナーゼ®について

●ぎょうこ いじょう凝固異常(つづき)

肺塞栓症

胸の痛み、突然の息切れ

頭蓋内出血

突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐おうと、突然のめまい、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる

●かん き のうしようがい肝機能障害

疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振

●こうけつとう高血糖

体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える

●こつずいよくせい骨髄抑制

発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重いどつき、動悸、息切れ

血小板数減少

鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい

好中球数減少、発熱性好中球減少症

突然の高熱、寒気、喉の痛み



おうと
嘔吐



頭痛

かんせんしょう
● 感染症

発熱、寒気、体がだるい

肺炎、気管支炎

発熱、咳、痰、息切れ、息苦しい

咽頭炎

喉のはれ

敗血症

発熱、寒気、脈が速くなる、体がだるい

のうしょう
● 脳症

意識の低下、意識の消失、考える力の低下、記憶力の低下、異常な行動、けいれん、自分の意思とは関係なく身体が動く、歩行時のふらつき、口のもつれ、動作が鈍くなる



発熱



体がだるい

副作用は全ての患者さんにあらわれるとは限らず、その症状や重症度も人それぞれです。

特に過敏症、肺炎、凝固異常に伴う血栓性凝固障害は重症になる場合があるので、十分な観察が必要です。

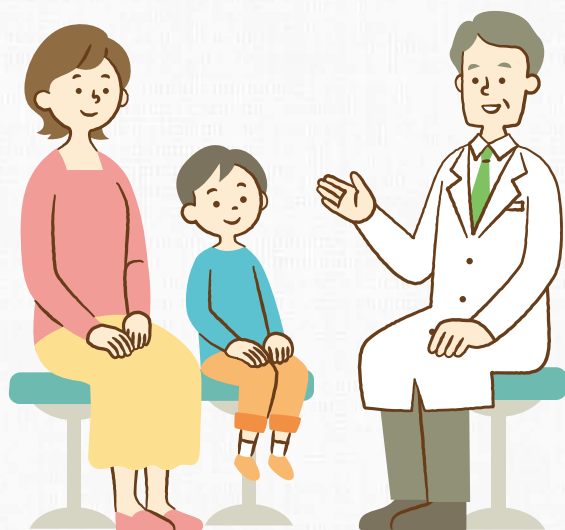
ご自身の体調の変化に気をつけ、少しでも気になる症状があれば、速やかに医師、看護師、薬剤師にお知らせください。

ご家族の皆様へのお願い

- 治療中に一時帰宅等された際、気になる症状があらわれた場合には、具体的にどのような症状があらわれたのかを日付と共に記録し、医師、看護師、薬剤師にお伝えください。
- 緊急の場合に備えて、あらかじめ医療機関の連絡先を確認しておいてください。

他院を受診する場合の注意点

- 緊急時を除いて、まずは主治医にご相談ください。
- 他院の医師等にアーウィナーゼ®による治療を受けていることをお伝えください。



医療機関名

担当医

連絡先

緊急連絡先

